

日田市総合的な子ども支援拠点・子ども総合局

【テーマ】日田市総合的な子ども支援拠点と子ども総合局

【質問のポイント（崎尾）】

- ・「子ども支援拠点」と「子ども総合局」はどう違うのか？
- ・新しい組織を作る狙いと、将来のビジョンは？

【市長の答弁】

- ・「子ども支援拠点」は、困っている家庭の相談を受け、支援へつなぐ現場の窓口。
- ・「子ども総合局」は、教育・福祉・保健を統合し、制度面での“受け皿”を担う。
- ・両者を連携させ、支援の“はざま”に落ちる人をなくすことを目指す。

【崎尾の提言】・不登校、貧困、家庭問題などを一体的に扱える仕組みを求める。
・教育の質は人口流出にも影響するため、地域が誇れる教育を育てたいと訴える。

【孟母三遷の引用とその意図】崎尾は、教育が家庭や地域の将来を左右することを、古の故事「孟母三遷」を引いて説明しました。

孟子の母は、子の教育環境を整えるため三度住居を移したという話です。この言葉を通じて、日田市においても「良い教育環境こそが家族を支え、地域の未来をつくる」ことを強調しました。

また、不登校児童の保護者が隣町の教育環境を理由に転居を考える事例を紹介し、教育施策が人口動態にも直結する現実を訴えました。

【まとめ】>「支援を受ける場所」と「制度を動かす仕組み」を両輪で整える。
崎尾は、教育と福祉を連携させた“日田モデル”の実現を提案しました。